



語字英原田 観

No. 829

2017/ 5/5

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒113-0033 東京都文京区  
西目黒1-1-1072ビル

日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8256  
岡山市東区3-8-30 514  
TEL:086(272)-3016  
郵便番号1100  
01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8911  
倉敷市遊島中央1-8-4  
(宮地方)  
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhong.biz/>  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



## 中国帰国者問題写真と資料展② 残留孤児の歴史と現状を知ってもらいたい

4月18日から20日まで、岡山市役所1階ロビーで開催された「写真と資料展」のつづきです。

今回初めて、1月5日号の林家三平師匠の「中国でも受けた落語の妙味」や昨年10月25日号の「忘れない―敵国の子供を育てた養父母の思い―」など日中友好新聞を展示しました。そのほか、総社市の「チャイナフェスタ2016」や洛陽市を訪問した写真と記

事も展示しました。

今回は、芳田日本語学習講座の受講生(黒田さん)のきり絵が、大変すばらしいとの感想が多くありました。

3日間で、日本語教室の受講生・講師、市の職員、市役所を訪れた人など約200人が参観しました。取材は2件(山陽新聞、岡山民報)ありました。

山陽新聞の取材に応じた今岡さんは多くの市民、特に若い人たちに戦争が

もたらした残留孤児の歴史と現状を知ってもらいたい」と強調しました。

取材を受ける今岡さん

この展示会は、2008年4月に第1回目を開催し、今年で10回目になります。これまで前日の準備から片付けまで福祉援助課をはじめ多くの人々の協力で開催してきました。今年も、井上愛子さん(日中岡山支部の監査)が、3日間当

番をしてくださいました。91歳になりますがお元気です。

来年は、2008年2月に岡山の「孤児訴訟」が終結して10年になります。訴訟を振り返るとともに、深刻な介護問題など「中国帰国者の現状」について、展示していきたいと思っています。

小林軍治

つぎは、19日に当番をした丸山さん(日中岡山支部理事)の感想文です。

### 井上さんの話が心に残った

私は、19日(水)が当番でした。9時から17時まで91歳

になる井上さんと参観者に資料を渡すなど受付をしました。私も一通り展示をみてまわりました。戦争中、戦後の日本の立場、中国に住んでいた人々の生活がよくわかりました。並んで受付をしながら、井上さんの中国での話を聞かせてもらいました。



井上さん(左)と丸山さん(右)

井上さんは、昭和21年から28年までの7年間看護婦として仕事をされ、その苦勞をしっかりと話されました。話のたびに写真をみないきより現実的になりました。

私にとって中国に住んでいた人たちは、歴史のように思っていました。井上さんの話を聞き、大切なことが聞けてとてもうれしかったです。

中国語を今もすっかり覚えておられ、教えてくれました。中国でのことは日にちまです。はつきりしていて、その状況が目には浮かぶほどのことで、素晴らしいと思いました。

こういう人達に集まってもいい、話が聞けたらいいなと思いました。

戦争中の歌を2人で歌いました。

“見よ、そうかいの空あけて―旭日たかくかがやけば―”

など最後までよく知っておられ、歌詞をノートに書かしてもらいました。

私にとって中国帰国者問題などの展示も素晴らしいもので、井上さんと話した6時間、とてもいい時間を過ごすことができました。

丸山奠子

### アンケートから

戦後71年を迎え、過去の出来事知らない人が多くなり体験した方の声を聴く機会も少なくなるなか、毎年定期的に企画される写真展は意義あることだと思えます。戦後生まれの私にも多くを学ばせて頂きました。ご苦労様でした。

60代 男性

日本の親族にあえなかった人のことを思うと心が痛みます。帰国された方々のご苦労もどんなにかと思います。

70代 女性



民進党高井事務所のスタッフ

今の政治がかつての状況に似ているようでこわいです。平和な世を子や孫に残せるよう祈ります。

60代 女性

残留孤児の方はこの国で大変苦労されたと思います。ことば文化、生活するにあたってまた中国から勉強しにあらいは働いている方も多く見かけます。ことばを覚え食文化の違いの違ひもあるなか、苦労しながらも一生懸命頑張っている方もいます。日本と中国の友好的な平和が続くことを願います。

50代 男性



## 中国問題講演会 (仮称)

日時:2017年6月23日(金) 18時~20時

場所:岡西公民館 2階

演題:(仮称)今の中国をどうみるか「中国脅威論」をまえにして

講師:大西 広 先生

1956年京都生まれ。

京都大学経済学部、大学院を卒業後、立命館大学助教授、京都大学助教授・教授を経て2012から慶応義塾大学経済学部教授。講義科目は「マルクス経済学」。京都大学名誉教授。

現在、北東アジア学会会長、World Association for Political Economy 副会長、基礎経済科学研究所副理事長、日本中国友好協会副理事長。

参加費: 300円 (資料代ほか)

主催:日中友好協会岡山支部

### 倉敷支部 第18回中国問題文化講演会

日時:2017年6月24日(土) 13時30分~16時

場所:倉敷健康福祉プラザ201研修室

演題:(仮称)今の中国をどうみるか「中国脅威論」をまえにして

講師:大西 広 先生

## 中国語土曜日クラス

### 孟老師の歓迎会を開きました!

4月15日の土曜日、1時から授業を行い、その後7時からイタリアレストランで歓迎会を開きました。

今回は中華ではなくイタリアンにしてみようと誘ったのは私です。

当日7時過ぎに4人がそろいました。山崎さんは都合が悪く、孟老師と三宅さん、田中さんと私です。

前菜、サラダ、カマンベールチーズのフランベとフランスパン、チリ産のオマールエビをゆでたのが小さなバケツで出てきま

す。そしてメインのカナダ産のオマールエビ、子が入っていてとてもおいしかったです。ワインを飲みながらいただきました。

食べながら三宅さんが孟老師に質問しました。日本にきてから中国とは違うなあと思つたことが何かありますか。孟老師が答えて、大学のゼミで学生が発表する順番を決める時に、なかなか決まらないので、私はこの日にちでやりたいです。」と口火をきつたら、次々と決まってい

に、その途中で男子学生が私の言った日にちでないと言えないと言いついて、びっくりしました。それから、私はこうしたいのですが、皆さんは大丈夫ですか?」と尋ねるようになっていきます。

この話を聞いて、若い学生たちでも本当に日本的な行動をするんだと考えさせられました。

“自分の意見をはっきり言わない。まわりの考えを慮る(おもんばかる)ことを暗に要求する。その結果が今の森友学園問題だと思つたわ」と、余計なことを言つてしまいました。

真田

## 私の教育勅語

梶尾玲子

その昔といつてもつい80年ほど前、私は小学校に入学、教育勅語と初対面、先生からおにかく丸暗記するよう」に申し渡されました。

当時国語の一頁目は「サイタ サイタ サクラガサイタ」と平和のようでしたが、翌年は「ススススヘイタイスス」に変わっていました。日本が中国を支那とよび大陸へどんどん侵略を進めていたころ、世界にむかつては「事変」とあざむき国連の忠告も無視していたころです。当時は歴史とい

う教科はなく国語の時間に神話を歴史として教えられました。例えば日本の国は神様が縄を投げてひっぱつてきた尊い国と教えられました。すべてがこの調子で、立派な軍国少年少女が生まれてゆきました。

戦争は教育から実践されてきました。嬉しいはずの祭日も天皇家の人の誕生日、亡くなった日また陸海空軍記念日、宮中内での天皇の行事がそうでした。白手袋の校長先生が教育勅語を読む、頭をたれて聞く、君が代をうたつて終わりと、楽しくもうれしくもない、さわぎ遊びもできない日でした。そしてある日、出

## 第6回「孟子」を読む(つづき)

### 滕文公篇 (下の2)

弓田 盛樹

外交家の景春が孟子に大丈夫(=立派な人物)について尋ねる行があります。孟子は自身の考える大丈夫について、「目指すところを得て政權を握れば、民とともに行き。支持されない場合は1人で志を果たすことを目指す。富貴にも心乱されず、貧賤にも挫折せず、威嚇にも武力にも決して動じない」と述べます。これはそのまま、自身に重ねての発言です。こうした孟子の潔さを現代的に考えると、サービスとホスピタリティの違いが分かります。ホスピタリティでは主客は対等で、例えば買い物に行ったときに、店主がイヤだと言えは私たちは買い物できません。しかし、サービスではお客は絶対です。また、サービスではメニューに無い物は提供してもらえませんが、ホスピタリティは店主の判断で可能なら提供してもらえます。つまり、ホスピタリティでは主客双方に敬意を持つことが課せられ、提供者側に全指導権があるようですが、客側がどうしたいのかが常に問われているのです。孟子の一見頑なともとれる態度表明は、富国強兵を求める諸侯に対して、それが本当に人の幸せを実現するのかと強く問いかけているのです。

つづく

5月15日号は休刊です。

1945年の敗戦のあと生まれた平和憲法の「9条」がある限り、日本国民は戦争で殺し殺されることはないのです。いま 教育勅語を教材にしてもいいですよ」と、とんでもない人達がすすめています。私たちはよく考えて同じ過ちをくり返してはなりません。憲法9条こそ命です。

次回の新聞送付作業は

5月22日(月)午後1時半から

民主会館2階で行います。

前回お手伝いくださった方です。

石川 林和  
小内 和  
竹内 和  
竹内 和  
坪井 和